

雜報

○淡路洲本附近の段丘

洲本町の西方にはまごして花崗岩より成る北方山地と白垩紀層よりなる南方山地との間に南北約四軒、東西約七軒強の低地あり。この低地は西南より來る物部川、その支流築狭川の流域に屬す。兩川の兩岸には極めて美麗なる段丘發達せり。即ち洲本より輕便鐵道により西すれば守口驛(鹽屋附近)北方に高さ約一〇米の段丘あり、段丘の下部八米内外は花崗岩のカスプを顯せり。これより西方物部川北岸には更に高さ一段あり。物部川南岸に於ては大野村附近に於て三段あり、段丘上は平坦にして廣濶何れも水田となり恰も沖積平地の感あらしむ。多くの農家は密集するもの少なく段丘上に散點せり。築狭川沿岸にも同様三段許の段丘ありて上田原附近標式的なり。而も之等段丘の最も高きものは海面上約六十米にありこれ等の段丘より稍高く浸蝕の進める丘陵地あり、大野村西方及東南(池ノ内附近)等これなり。池ノ内附近は粘土に富む白色砂にして多少の礫を交ゆ。この砂は水鏡して白色粘土を採り陶器原料として搬出せり。これ等の丘陵地はプライストーン舊層なるべく、段丘地はプライストーン新層なるべし。尙、上記の低地は低き分水界によりて西方の大目川流域の低地と連りこの低地にも、段丘發達せるもの、如し。廣き區域に互り、淡路に數階を爲せる段丘の成因は興味ある問題ならんも未だ茲に

之を論ずるまでの材料を蒐集せず。唯大に段丘の發達するを報導するに止む。(上治)

○安行地方の苗木

埼玉縣北足立郡安行村地方は近年園藝の進歩と共に日本有数の苗木及庭園樹木の生産地として知られてきた。明暦年間吉田權之丞なるものが珍奇の花木を栽培したのに始まるが明治に至り帝都に近いために俄然勃興し、關東震災のために東京、横濱などの復興によつて大小公園、又は個人の庭園に需要さる、常緑樹の需要が増加し、販路益々擴張するに同時に、明治二十二年頃から既に外國への輸出の途も開け、内地各方面へも移出され、今や安行村を中心として附近村落の栽培者六百に達し生産區域は北足立郡内二町二十ヶ村、就中安行、神根、戸塚、の三村をまごして年産額約百五十萬圓を超過してゐる。

栽培植物は、觀賞用、盆栽類、鉢物類、垣根用、果樹苗類、果樹苗木、山林苗木其他の七種類に至りスギ、ヒノキ、マツ、カウヤマキ、ソテツ等をはじめチヤボヒバ、モミヂ、イテウ、サクラ、プラタメス、モツコク、アオキの類からシイダ、サツキ、アカシア、ウメ、ホケ、ザクロ或はミカン、キンカン、タチバナ、モ、ナシ、リンゴ、あらゆる果樹と苗木とを産出する一年のうちで十月、十一月及三月、四月の二期が移出入期であつて移出先は全國に廣がつてゐる。一例として果樹苗のみの取引先を記す左の如くである。

- 梨 東海道、關西方面、朝鮮、林檎 朝鮮、關東州、青森
- 柿 關西、朝鮮 栗 丹波、兵庫其他

桃 東海道、中國

葡萄 岡山、甲斐

柑橘 房州、静岡

梅 東海道、關西

櫻桃 青森、秋田、長野

これで見ると我國の有名な名果は埼玉が元締であるといふことになる。蓋しこの地方人の粘木の術が素敵にうまいといふ點がかくの如くならしめたのであるらしい。

○北海道西岸の堆

本年六月以來特務艦武蔵は北海道西岸沖合の測量に従事中利尻島の南西方約四十里の附近に大きな堆の存在することを發見し、精細に探測したところ此の堆は十七尋及び十九尋の二頂を有し、之より北西方に約二十里東方に約三十里擴張し其の幅は約二十里であり、最深部の周圍五里半徑の間は水深二十六尋乃至六十二尋である。この堆と利尻島との間には百尋より深く百八十九尋に達し南北に互る一帯がある。

因に云ふ。小樽新聞の記事によれば此の堆の發見は北海道水産界の一大慶事であつて北海道水産試験場にて早速之が調査に従事したが其の結果三十四五尋までの處にはソイが棲息して二十四五尋の處に最も多く七十尋以上には棲息しない、又鱈は百尋前後の處に多く棲息して居る。其他カレイ、イカ等の棲息が甚だ多いこのことである。(水路要報第四年第十號に據る)。

○航洋船宜昌直航成功

過去十年間の漢口港平均水標は最高四十五呎二吋最低二呎四吋、從來海洋船の長江航路は漢口港を最終點として稀に小型の鹽船が上流沙市迄溯江せし外漢口

宜昌航路は全部河用汽船に委ねられるが本年九月三井洋行は所屬船高雄丸(二千七十五噸)をして右航路を試航せしめ九月三日漢口を發し途中差したる難儀なく同月八日見事に着宜、満載せる石炭を全部荷卸し、九月十七日漢口に下航せり、本航路の夏季増水期航行可能は從來船舶業者の調査にて一般に知れ渡れるが實際上の航行は今回の試航を以て嚆矢とす、三井洋行はこれより續々海洋船の宜昌直航を實行する意氣込なるが兎に角、本航路の發展は將來長江貿易に資する所大なるべしといふ。

○西比利亞地方組織

五月廿五日、ソヴェエト共和國聯邦政府は中央執行委員會裁可に係る西比利亞地方組織法を公布せり、同法によればシベリア地方は現オムスク縣がノオニコライウスク縣となり、外にアルタイ縣、エニセイスク縣及オイラチ自治地方其他より成り、十七區に分たる、首府はノオニコライウスク市である、區名は、

タイスキー區、

オムスキー區、

スラウゴールスキー區

バラビンスキー區

ノオニコライウスクキー區、カールメンスキー區

バルナウリスキー區

ピスキー區

トムスキー區

クズネツキー區

アチンスキー區

クラスノヤルスキー區

ミクーシンスキー區

カンスキー區

ハカススキー區

ルプツオウスキー區

オイラトスカヤ區

以上十七區である、

○匈牙利に於ける聚落の形式

ギウラ・プリンツ博士

(Dr. Gyula Prinz) は匈牙利聚落の形式に關する研究を一九二四年の匈牙利年報 (Ungarische Jahrbücher) 第四卷第二册より第四册に發表した。(此の雜誌は大戦以後伯林大學匈牙利研究室保護の許に發行せられる高級雜誌で匈牙利の歴史、土俗、地理の研究發表機關である) 此の研究によれば比較的新らしき聚落の起原は稍明瞭であるとは云へ其の他の聚落の實際の起原は最早明瞭でなくなつたが、大比例の地圖 (著者は七萬五千分の一の塊匈國地圖を用ひた) 上に於て諸村落の平面圖を研究すれば或る一般の類型を確定する事が出来、其れが國內に於ける分布を追求する事が出来る。多くの部分は諸形式の混淆を示すが又或る部分に於ては地質的若しくは土俗的要因に起因する形式の相違が認められ其の間に明確なる一線を劃する事が出来る場合もある。筆者は此の問題に關しては主として獨乙派學者の分類法に従つて居る。此の分類法は村落を

(一) *Häufendorf* (元來分散して居た諸要素が自然に集合して形成せられた村落を意味し群集村落或は群村とでも譯すべきか)

(二) *Runddorf*

(三) *Pfaunmässige Dörfer* (人工的計劃によつて形成せられた村落で之れを又種種に分類する事が出来る) の三類に分つものである。而して分散せる諸要素が集合する過程に於ては土地の凸凹が主なる影響を興へるであらう、何と云へば細長い谿に於ては家居の集合は連続せる數條片となり、廣き谿に於ては比較

的斷續せる群集なるであらうから。匈牙利の聚落に於て最も興味ある要素はアルフェルド (Alföld) 低地に於ける大群集村落である。

此れは凡ての聚落形式中最も標識的に匈牙利の特徴を正すもので其の平面圖は土耳其斯坦に於ける都市の平面圖と酷似して居る。此の形式の或る一群は、共同の中心即ち市場より街路が四方に放射して居るの特徵とし而して其の形狀の元來圓形なるは例へばヤズバタイ (Yazbatali) に於けるが如く聚落防禦の防壁に起因し外輪街の形狀又同じく之れに起原するのである。時とせば複輪があり之れは時の經過と共に聚落が外部へ膨脹した事を示して居る。其の中央市場に聚る主要道路は不斷に連續して中心に集るが唯時として中心に達する以前分岐して二となり此處に星形が形成せられる事がある。聚落が密である事は一般の特徵であつて之れは防禦の必要より起り又タイヌ河流域の低地に於ては洪水を逃れんとするに起因して居る。其の第二次的の市街網は一見全く何等の系統なきもの、如くであるが此は實は農民が能ふ限り最も直接なる道路によつて己が住家に達せんとした原始的通路を繼承したものと考へられる。

此の主要なる形式の一變型は街路の排列が放射的ならずして扇狀であるものであり、更に他の主要なる一群はトランスイルヴァニアアラチア人 (Wallachians) の不規則群集村落即ち *Wirtschaftsdorf* であつて此の形式に於ては其の街衢に何等の系統も追求する事が出来ず家居は地形とは何等の關係もなく群集して或る一塊をなして居る。例へば *Yalce* は八個の山脊を

占め其の端縁部に位置して居るのであるが平坦なる平原上に擴
大せず其の街路網は全く偶然的のもがある。スエクラ人
(Sukra)の村落はアラチア人の村落とは幾分異つて居つて其
の聚落が稍粗である。此は此の民族の獨立の性格の反映である
が又其の地の自然に影響せられた所も可なり多いのである。此
の論中には其の他種々の形式が叙述せられて居るのであるが其
の中に街村なるものがある。此れは大道に沿つて發達した村落
を意味せず家屋が連続せる二列に建てられ其の間に街路として
の空間を残すものである。尙其の他四角空地の周圍に建てられ
た村落即ち Ryndorot なるものもある。著者は最後に諸形式の
地方的分布を地圖上に表示して居る。(ツオグラフキカルツヤ

ーナル、一九二五年、六月號、五四五—五四六頁、小牧實繁譯)
○パレスタインの近況 政治的及び經濟的狀態の漸次安
定するにつれて中産階級に屬する猶太移民が波蘭、埃地利、獨
逸及び希臘から續々入り込んでパレスタインの人口が富さを増
加させてゐる。これらの移民の落着き先は、主として活動の中心
地たるテル・アヴィヴ及びハイファで彼等は既にエルサレム銀
行へ尠なからぬ預金をしてゐる。これら一つにはパレスタイン
政府が下等移民の入國を防ぐために二千五百弗の見せ金を要求
してゐるためでもあるが、既に著しい改善を示してゐるパレ
スタインの産業及び經濟狀態はこれら資本金持參の移民の入國
に依つて更に一段の繁榮を齎すべく豫想されてゐる。

一九二二年から一九二三年へかけて不況のどん底にあつたパ
レスタインの商業が一九二四年に著しく活氣を呈したのはオン

ンザの收穫増加と穀類の價格の騰貴に依るもので、また同年
に於て多數の旅行者が莫大な金額をこの地で消費してゐること
も見逃すことが出来ない。パレスタインの農産品の輸出先は主
として英吉利、埃及及びアルザエリアである、西班牙に於ける
巴且杏の不作もまたパレスチンを利すること大であつた。

一九二四年に於けるパレスタインの輸入總額は二千七百九十
萬弗、輸出總額は一千九十萬弗で、物資の供給國及びその百分
率は英吉利一八・〇五%、シリア一六%、獨逸一〇・五%、米國
七・五%等で、パレスタインより物資の供給を受けてゐる諸國
及びその百分率は埃及四三%、英吉利三〇・六%、シリア一六・
七%等である。この地に於ける獨逸商品の活動は凄じいもので
英吉利はその競争に敗れて段々にその地點を失はんとしてゐる
これは獨逸がパレスタインを足溜りとしてトランスヨルダニア
イラク及びシリアにその商品の販路を見出さんとしてゐるため
でもあるが、それが主として獨逸に於ける猶太人商工業家に依
つて行はれてゐることにも注意すべき事實である。

一九二四年中にパレスタインに起つた新産業のうち最も吾々
の注意を惹くものは養蠶業である。一九二四年に於ける蠶草の
耕作地積は一九二三年のその約三倍で五千エーカーを算し、
千八百四十五噸を産出してゐる。またハイファに起つた製油事
業も一九二四年からその操業を開始して石鹼橄欖油等を生産し
てゐるが、その石鹼は豚脂を原料として使用せぬために各地の
回々教徒に歡迎せられ、埃及、シリア及び印度に向け多量を輸
出してゐる。また資本金一百万弗のハイファのポートルランド・

セメント工場は既にその竣工に近づき、エルサルムに於ける新式の製粉會社は一日五十噸の能力を有し、テル・アウイザの新煉瓦工場は一ヶ年の生産高一千五百萬個と稱せられ、一九二四年から作業を開始したアスリットのパレスチン製鹽會社は海水の蒸溜によつて上質の鹽を製造してゐる、しかし鹽はパレスチン政府の專賣であるからその生産は全部政府の手で買収されてゐる。かくてヨルダンの水力電氣が完成し、運河が開通してヨルダン豁谷の乾燥した土壤が充分に灌溉された曉に於けるパレスダインの發達は誠に驚くべきものがあらう。

新刊紹介

○提實地地質學

(増訂版) 理學士 大榮洋之助氏著

東京榮華房發行 定價二圓八十錢

本書は名の示す如く地質調査の現場作業を主眼とし、地質學の教科書に教ふる原則を現場に應用して或る地區の地質構造及び包蔵する鐵産物を決定するに當り必要な實際的注意を具象的に説明したものである。此の種の書物は英來佛獨に種々ある中の最も古いのに英國アークバルド・ゲーキーの野外地質編があつて、地質學の門に入らんとするものに好指針であり、獨逸のアルテルの地質學入門篇も之と趣を同くした良書である。然れども此等の書物の缺點は一通の地質學を書物で理解した上で實

地の調査に従事するものに必要なる注意を興ふるには餘りに平易通俗に失してゐる感がある。本編は近頃米國で出版された鐵床の地質調査に要する要項を列擧した諸書を參考されて應用方面の調査に従事せんとするものに教ふる目的で書かれてゐる。故神保先生が野外の地質調査に關する方法を邦文にて記したるもの最初の書なり、三十四頁に互る所の調査項目は觀察の手落ちなきためものにして之を擧げたるは本書の親切なりと本書の第一版を評されたのは適評で、僅々二百頁の一冊子に實地の注意を殆んど遺漏なく網羅し、行文簡明なれども極めて平易であるから必しも地質學の素習の深くないものにも容易に理解される。苟くも野外作業に出んとするものは何時も先づ本書を一讀して重要な事項の觀察に要する準備の器具器械材料を整理して出發すべく、野外作業を了り引上げる時に更に一讀すれば恐らくは後に觀察の缺陷採集材料の不明等取り返しのかかぬ不注意を悔ゆることなからう。是は著者の多年地質調査所及び鑛業會社の技師として實地作業で獲た結晶たる本書の特長として推奨に歸せぬ。(小川)

○大日本帝國郡市別人口密度圖

石橋五郎監修 小野鐵二編 東京富山房 發行 定價五圓
縦五尺二寸横三尺六寸、解説及人口密度表附

日本には未だ良き人口密度圖がなかつた。本密度圖は小野學士が京都帝國大學文學部地理學教室に於て多大の苦心を以て調製された郡市別人口密度圖を百五十萬分の一の縮尺にし、郡に於ては九段級に分けたものを三種の色彩で顯はし、市に於ては四